

平成 29 年 9 月 21 日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）高等特別支援学校の早期建設について

広島県特別支援教育ビジョンに示されたように、通学の利便性や企業の立地状況などを考慮して高等特別支援学校を検討するとした場合、平成 33 年 4 月の移転が決定している広島県立西高等学校は市内中心部で、利便性もよく、また、校舎も充分使用できることから、この跡地を高等特別支援学校として新たに誕生させていくことが、もっとも時宜にあっているのではないかと思う。

ビジョンに示した高等特別支援学校の在り方について、県はどのように考えているのか、併せて、増え続ける特別支援学校の生徒の学ぶ環境整備をどのように考えているのか教育長に伺う。

（答）

はじめに、高等特別支援学校の在り方についてでございます。

高等特別支援学校につきましては、平成 20 年 7 月に策定いたしました「広島県特別支援教育ビジョン」におきまして、知的障害のある生徒に対する職業教育の充実を図るため、通学の利便性や企業の立地状況等を考慮しつつ、設置を検討することとしているところでございます。

本県の特別支援学校高等部の職業コースにつきましては、就職率が 90% を超えるなど一定の成果を上げ、生徒の就職先は拡大しておりますが、就労の内容を見てみますと、清掃や製造現場における補助的業務が多く、今後、雇用数を拡大するためには、より実践的で専門的な職業教育を行う高等特別支援学校を設置していく必要があると考えております。

こうしたことから、高等特別支援学校の教育内容につきまして、専門学科を有する高等学校の教育内容を活用することなどの具体の検討に入っているところであり、教育委員会といたしましては、設置に向け、引き続き、検討を進めてまいります。

次に、特別支援学校における生徒の学ぶ環境の整備についてでございます。

特別支援学校の児童生徒数の急激な増加に対応するため、これまで、特別教室の普通教室への転用や校舎の増築など、適切な教室数を確保してきたところでございます。

引き続き、平成39年頃までは特別支援学校に在籍する児童生徒数が増加することが見込まれますことから、教育委員会といたしましては、全国の取組事例も参考にしながら、長期的な視野に立った教室数の確保等に向けた具体的な対応策を検討することによりまして、児童生徒の適切な教育環境の整備に努めてまいります。